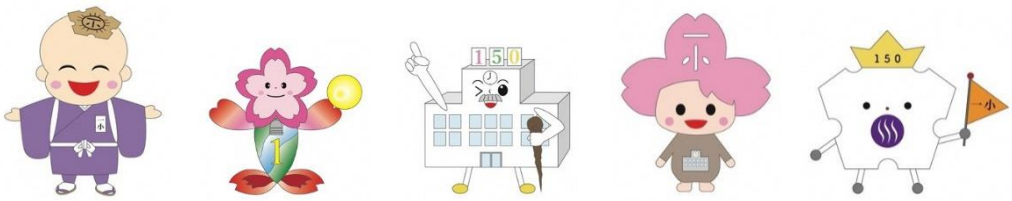


つなぐしばさきつむぐ

令和3年度　2021.9
コミュニティ・スクールかわら版
発行：立川市立第一小学校学校運営協議会

ガサガサ体験　4年生　残堀川にて　学ぶ

総合的な学習の時間に「レッツゴー多摩川」という単元を設定し、多摩川について学習しました。最初に多摩川についての調べ学習に取り組みました。グループで調べた学級では、「多摩川の植物について」「多摩川の魚について」などのテーマをグループごとに決め、さらに「季節によってどのような植物が見られるのか」「上流、中流、下流によって見られる魚は違うのか」など、より詳しく知りたいことを調べ、深めました。

そして、7月15日、水辺の楽校の方々にご協力いただき、多摩川の支流である残堀川へ行ってガサガサ体験を行いました。終了後、子ども達から「触ると、とてもつるつるしていた」「捕まえたら、ぴょんぴょん跳ねて、生きていることを感じた」などの感想が出てきました。教室で調べただけでは分からなかったことを感じられる良い経験となりました。（4学年主任・新井）

たちかわ水辺の「楽」校

中村恭之

天候の不安定な中、先生方、PTAの方にご協力をいただき心より感謝申し上げます。

ガサガサのガサは「捜す」の逆で、水生生物等の家宅捜査をしている状況をオノマトペ風に表現したものではないかと解釈しています。あくまで私見です。

平成18年、「たちかわ水辺の楽校運営協議会」が設立されました。その前身は、「立川かんきょう市民の会」で、東京都の環境学習リーダー資格者が中心となり運営してきました。ガサガサ学習、ヤゴの救出作戦ともに十年くらい前にスタートしたと思います。

たちかわ水辺の楽校の会員登録数は20名で、他の環境ボランティア団体にも所属しているメンバーが多く、今回の企画には「がにがら田んぼネット」「玉川上水の自然保護を考える会」、それに自治会等、当団体会員以外からも応援をいただきました。

たちかわ水辺の楽校の主な活動内容を紹介します。

・ガサガサ学習（水生生物・植物の学習）
・多摩川の源流教室
　山梨県小菅村の川で、大自然を楽しみ、体で感じて学びます。
・昆虫・野鳥の観察会
・たまがわみらいパークでの「ものづくり会」に参加・協力
・まんがパークで開かれる環境フェアに参加
・美しい多摩川クリーンアップ作戦に参加

多摩川流域には、二十くらいの「水辺の楽校」があります。子どもたちには、季節ごとの自然を肌で感じる能力と生物を愛する心を持ち続けてほしいと思います。私たちの活動がその一助になれば嬉しく、メンバーも元気になれます。　（中村さんは、本校学校運営協議会委員でもあられます）

ざんぼり川 新聞

2021年7月15日

草について、おまかせ!!

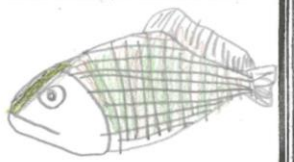
草は草でも食べられるしゅるいの草もあるだ。たとえば、ヒメジオンは、なまで食べるしまりおいしくないけど、てんぷらにして食べるとすごくおいしいのだ。

このように食べられる草もざんぼり川にあるのだ。

魚のきもち、まる分かり!!

あみで、魚をさがしてみまして、「やったー」と思だけど、なげれている魚をみて、魚もがあいそうだと思った。

このように、魚びもにげるのに必死だとった。



感想

このようにざんぼり川には思っていたよりいっぱい植物や、生き物がいることがわかり、もっとしぜんたんけんをやりたいと思った。

残堀川新聞

2021年7月15日

ガサガサ体験!!

「ガサガサ体験」をしてわかったこと

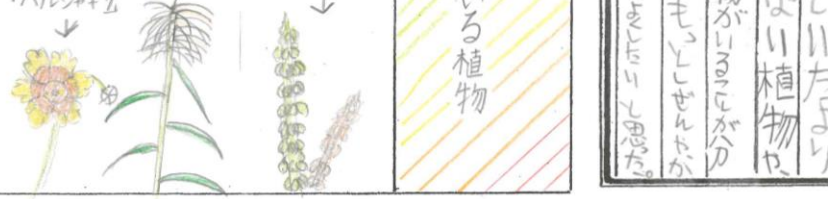
残堀川には、小さい「えび」がたくさんいました。その中でも少し大きい「えび」もいました。他の魚は大きい魚もいました。小さい「どじょう」もいました。あめんぼもいました。

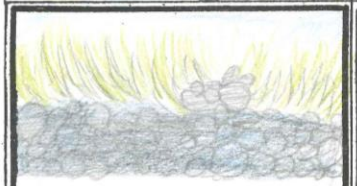
残堀川には、「カワセミ」という鳥が残堀川に魚を食べにくるそうです。

残堀川に育っている植物

残堀川の植物

「ギンギシ」という植物があります。「ギンギシ」はギシギシと音がなるので「ギンギシ」と言います。他にも、カイコのエサの「ツルヨシ」や、とくそう外来種の「ハルシャギク」や夜にさいて月を見る分から「ツキミソウ」という花もあります。





感想

残堀川にはもっと少さい魚がいると思っていたけど、少し大きい魚もいたからおどろきました。植物は、「ギンギシ」などおもしろい植物もありました

しぜんはみんな生きている！

しぜんは生きている新聞

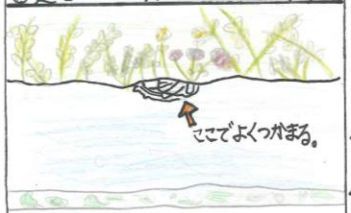
2021年7月15日

ほんが10人いるからさがして

こんにちは

ひっさつ「ガサガサ」

①まずあみをおきます。
②足でどんどんする。



風けい。いろいろないき物がいる。

☆なんで？みんな生きてる

今日、総合的な学習で、魚などをつかまえました。石にはこけがあり、水はいきいきとしていました。そのおくの草の方で、あみをおき、足をどんどんすると、えびがかかりました。さわると、ぬるぬるとしていました。ぴょんぴょん、とびはねていました。その時、ぼくは、はっとしました。生き物、石のこけ、水も、生きているみたいだ。ぴょんぴょん、とんでにげる、えび、みんな、生きていたいんだ。

とはじめて思いました。このきちょうな、ざんぼう川の体けんは、とてもいいです。ありがとう。

☆つかまえるこう・大切、大事な体けん

☆食べられる草

→いくつか例をあげました。

ざんぼう川には他にもこういう植物がいるそうです。↓

中には、とくてい外来種オウキンケイギクなどの、ふえるとがいのあるものもあります。でも自分で、きているわけじゃないのです。人間がらしいたべらすげんいんなのです。にげかもできたのです。

中には食べられるものもあります。食べる前は、大人とかくにんしてからね。

かたはみ
10円でするときれい。

ハルシャギク
名前がペルシャににている。

ヨモギ
けんこうにいい。

つきみそう
つきみの時つかった。

アカツメクサ
おくりものによくつめつめする。

クワ
こうきゅうでおいしいにもなる。大人になるとみかがなる

オウキンケイギク
とくていがいいしゅ

のぶどう
はっぱ、天ぷらにおいしい。のぶどうがなる

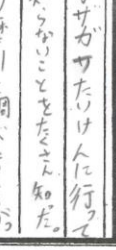
Eシ
ねっこによくはがとりのかくれば。

イタドリ
てんぷらにおいしくいたみをけ

ぜったいにかかせない植物

ヒメジオン
ハルジオン
もありはるにさくのがハルジオンわかいうちに天ぷらおいしい。

ギシギシ
みがなってまわすとギシギシなる。



安全めん

安全めんを考えて川に入ろう。

感想

しぜんの中のえびなどがとても、思ったのとちがったので、こういうけいけんをとても大切にしたいです。

植物について

植物のし類はしろつめくさ赤つめぐさ、ヒメ、オ、ぜそうなどがあります。特にやくそうはよもぎもちなどの食べ物になります。コミンは食べられます。とても大事なものだそうです。アメリカでスズランオンゲにしたそうです。ギシギシという植物があります。実出てくる時ふるとギシギシとなるがラギシギシと名前をつけうたたそうです。

ガサガサ新聞

しぜんを大切
外来しゅを育てい

※※※さをつけること

①はだしで行かない
②ながされないように気をつけて行く
③大人といっしょに行く

感想

ガサガサたけ人に行って知らないことをたくさん知った。多摩川を調べたのとちがってじっさいに行って自分でも、見つけられた。次からも、じっさいに行って色々自分で見つけたい。

川の生き物について

魚のしゅ類はえび、小魚、アメリカザリガニなどの魚がいます。ガサガサと名前がついたのはつかまえるときくさをふんでおびきよせる時がガサガサと音がなるからついたそうです。

･･･ おまけのお勉強 ･･･　　残堀川物語

少しこわいお話ですが『立川のむかし話』を紹介します。

「むかし、みずほに、じえもんという人がいました。ある日山へ草刈りに行きましたがあまり暑いので、近くの狭山ガ池にとびこんで、水あびをしました。すると、どこからか、大じゃが現れてじえもんをぐるぐるまきにまいてしまいました。じえもんはおどろいて、大じゃのどうなかを、口でくいちぎって逃げてきました。くいちぎられた大じゃから、三日三晩血が流れて、川になりました。人々はその川を、「じゃぼり川」と呼びました。「じゃぼり川」という名がなまって、いつのころからか「残堀川」と呼ばれるようになったといわれています。」

また、残堀川は、流量の少なさから「砂の川」とも呼ばれていました。もともとは、現在の砂川三番付近を流れ、そのまま南東方向に流れて今の矢川につながっていたと考えられており、地名の砂川の由来に川との関係があると考えられています。

時期に大きな違いがありますが、玉川上水（上水への助水とされた。今はそこにて立体交差している。一見の価値あり）、自動車工場（敷地外の西側を流れるようにされた）、昭和記念公園（公園の中に流れを見ることができる）等の建設に伴い、残堀川の流路はたびたび変えられてきました。自然の川とはあまりに形態が異なる流れとされた残堀川を地図で確認してみましょう。人の都合で気ままに変えられてきた姿に少々同情の念を抱かされるは、わたしだけでしょうか。

昭和記念公園を過ぎ四小校区を南へ流れてきた残堀川は、富士見町三丁目にて段丘崖の大きな落差を滝のごとく流れ落ちます。そこから1キロメートルほど下った柴崎町5丁目先、残堀遊歩道の下が私たちのガサガサの体験場で、瑞穂町の水源からおよそ13キロメート先の地点でした。（Y.M）

撮影：PTA広報委員会

あなたの支援を求めています　一小 そして 柴崎を盛り立てよう

さあ あなたの出番です！

お力添えをいただきたい項目をお示しいたします。多くの方々のお申し出をお待ちしています。

低学年	地域探検　　商店訪問　　やさい栽培
中学年	むかしの生活　　水辺の楽校（今回、ご協力ありがとうございました。） 柴崎分水　玉川上水
高学年	柴崎の歴史　とくに戦争体験　　柴崎巡り

皆さんの投稿（ご感想・ご意見・ご提言等）もお待ちしています。ぜひお寄せください。

（原案・作成：撰梅　編集補助：君塚）

残堀川
残堀遊歩橋
9名
柴崎町5－18の地番先

2グループに分かれて　先に植物をやる班
　　川に入る班

花の数
生物の数
にぎやか楽しそうだった
あいにくの雨
最後はずぶぬれ

（たわごと）
「1学級の人数が、校内で一番多い学年となったことを、『多くの友達のよさに気付き成長できるチャンスが得られた』と、一年後感じてもらえるよう、精一杯努めます」（3年生学年だより）　力強い決意表明に敬意です。でもあと5人いれば3学級だったのに、と思ってしまうのは私だけでしょうか。
「81、95、84、99、83、78、79（出典：毎年度学事報告）、66」
　これは、平成26年度以降の1年生の児童数です。ここから皆さんは何を思われますか。「こんなに家がある地域なのに、なぜ？」、これが率直な私の感想です。　（撰梅正人）

「しばさき」への熱い思い

「子どもたちは『立川の歴史を学ぶ』が奨励されているが、立川にある16の町は、それぞれの歴史を持っています。『立川の歴史』の一本でくくられると、それらの独創性が消されそうな気がします。郷土を愛すとは、立川でなく、柴崎町を愛することです。」
（中村恭之『学校運営協議会だより　令和2年度第4号』）

まずは「しばっこ」を育てよう

　立川市教育委員会は、「立川市民科」を来年度から教科とすることを公表しています。詳細は不明ですが、中村さんの弁を借りるならば、まずは地元、すなわち柴崎に光を当てることが大切となります。学校でもそのような取組を深めるカリキュラム作りを進めつつあります。この構想の実現には、柴

崎をこよなく愛する皆さまの支援が不可欠です。

柴崎には、強い地域力がある

「当時教委は（中略）そのようなことには一切触れず、特に新しく開校する七小の教室に余裕のあることと、一小の改築工事中の一時的に二部授業を解消するため、という表面上の理由により学区の変更を企画したのであって（中略）十月中旬、教委委員長より其の具体案を示されたのである。

即ち

A案 ： 柴四、五、六丁目を七小学区に変更する

B案 ： 柴三（南口大通以東）、柴四東、柴六を七小学区に変更する

此の実施は昭和34年4月よりとする

その後の経過も含めた詳細については、150周年誌の「校舎改築を顧みて」をぜひお読みいただきたい。

今も一小が柴崎町の小学校として存立できているのは、このような先人の努力があったことを忘れてはならない。

さあ あなたの出番です!

柴崎町には、児童館がありません。何故か？

立川市が新規に企画 (施設や事業)を展開させる場合、最初に振るのが柴崎町です。市政が敷かれた時、市役所や警察署があった柴崎町ですから、まず顔を立てるのが慣例となっていたのでしょう。この気配りを現代用語では〝忖度〟といいます。

で、児童館です。市役所は当然のように児童館第一号を柴崎町に計画したのです。ところが、地権者と長老たちが拒んだのです。「柴崎町に児童館など要らん。柴崎町の子どもたちは地域が守る!」。ちなみに、現在、8館ある中で一番古いのが富士見児童館で、1972年（昭和47年）の創設です。

思えば、わが立川一小も、1870年（明治3年）、地元の有力者である板谷元右衛門さんが私財を投じて設立した郷学校を発祥としています。柴崎町の地域力は、明治の始めから昭和にかけて脈々と受け継がれていたわけです。

では、時代が平成になり令和となった今、この地域力は、まだ力強く流れているのでしょうか？ 流れています。「一小わくわくクラブ」です。保護者力ももちろんありますけれども、地域力がなければ、日曜・祝日を除く毎日、年間250日も活動できません。立川市内19校のうち、第2位の小学校の活動日数は108日です。なかには年間4日という小学校もあります。それぞれに学校・地域の事情があるやに思いますが、柴崎町では、長老の後輩への「お前ら、もっと子どもたちのために身を粉にし

て尽くせ!」という怒号が聞こえて来そうです。

そういえば、放課後子ども教室も、一小が立川市のモデル校として全校に先駆けてスタートさせたのでした。かように、学校や子どもたちに対する柴崎町の地域力は、現在も健全に生きています。

話は変わりますが……いや、変わりません。「学校運営協議会だより」(令和2年度・第4号)の繰り返しで恐縮ですが、一小は「第59回BCS賞」を受賞しています。その選評のなかに、こうあります。「この施設は次世代を担う子どもたちが使う小学校・学童保育所を軸に、地域の人々がレクリエーションの場・生涯学習の場として使う学習館・図書館から成り立っている。これらの施設は共用することができる機能を持ち、さらに複合化することで高機能化する内容もある。」

立川一小が、学童保育所や学習館、図書館との〝共用〟が円滑に進み、さらに〝複合化〟し〝高機能化〟するために必要なのは、今さら言うまでもありません、柴崎町の地域力です。地域力は継続して

オストメイト展を見学しました(4年生)

「オストメイトのことは学習館に行く前は知らなかった。オストメイト人口が23万人ぐらいもいること、一小にもオストメイト対応トイレがあることを初めて知りました」。

「オストメイトの人のとく有のなやみごとなどを聞かせていただいて、オストメイトの方の目せんの思いも分かりました。」

「オストメイトのことをあまりよくしらなかった。おぼえたこともいっぱいありいかして生活したいです。」

「これからオストメイトの人が気楽にくらせるように、だれでもトイレは一人じめしない、など気をつけてみんながかいてきにくらせるようにしたいです。」(児童の感想の一部を紹介しました)

(『教育支援・連携』に関しての〖学校・諸施設の連携 〗部会の活動のひとつとして紹介しました)

いってこそ、さらに強固なものになります。さあ、あなたの出番です! (伊藤真人)

投稿
第一小学校の魅力

・校舎がおしゃれ
・自校式給食
・伝統と歴史ある学校
・立川の中心に位置する
・先生方の手厚い支援
現保護者の方から出た意見です。
今年度は、是非
「学校・保護者・地域が連携して学校運営を行っている」
「地域の方々の協力で子どもたちが様々な経験ができる」
「柴崎町の地域力が魅力」
このような意見がたくさん出るよう、学校運営協議会も盛り上がっていきたいと思います。

副校長先生投稿いただけたら。

発行：立川市立第一小学校　学校運営協議会

ご意見、ご感想、ご質問等ありましたらお寄せください。
第一小学校　副校長 丹野 優子 ／ 副校長補佐 撰梅 正人